

大地と生態系と人の物語

ジオパークの現地審査とは？

～四国西予ジオパークの再審査を例に～

【お問い合わせ先】
三好市教育委員会
文化財課 ☎ 72-3910



【写真1】ジオガイドによるミカン段々畑の説明

日本ジオパークの認定を目指して今年度から活動を開始した三好市。学校教育や地域の勉強会・講演会などを通して地域の方々と一緒にジオパーク活動を進めています。地域の方々のジオパーク活動の積み重ねや能動的な活動が「ジオパーク認定」の鍵となります。

今回の「ジオパークを知ろう」では、日本ジオパークの審査、とりわけ現地審査についてどんなことがチェックされているのかをご紹介します。

●年々厳しくなるジオパーク審査

日本ジオパークに認定されている地域は全国に43か所あり、日本ジオパーク認定後も4年ごとに審査を受ける必要があります。

認定審査は大きく分けて3段階あり、書類審査、公開プレゼンテーション審査、現地審査があります。

2015年以降、審査は年々厳しくなっており、2017年には新たに

高知県土佐清水市や栃木県那須烏山市など4つの地域が日本ジオパーク認定を目指して認定試験を受けましたが、そのうち3つが認定見送りの結果となりました。ジオパークとしての計画が実施できる持続可能な運営体制になっていない、ジオパークの内容や呼び名、テーマを再検討したほうが良いなど、さまざまな理由によって認定見送りとなっています。

認定審査の厳しさが増すことは、マインナスのことだけではありません。厳しい分「ジオパーク」というブランド力が増し、認定されている地域の「質の高さ」が示されることとなります。

またジオパーク活動は、私たちの住む地域の良さを丸ごと後世に引き継ぐ活動なので、三好市の魅力を語る人材を増やすことに繋がります。

●現地審査とは

4年前に日本ジオパークの認定を受けた四国西予ジオパーク（愛媛県西予市）では、2017年11月14日～16日まで日本ジオパークの現地審査（再審査）が行われました。

四国西予ジオパークは西予市の総面積約515平方メートルの広さを持ち、宇和海から四国カルストの山間部まで広がるジオパークです。現地審査では、考古学、土壌環境化学、デザインの専

門家計3名の審査員が現地を訪れました。審査員は、3日間の現地審査を通して、ジオガイド受講、地域住民の方々との意見交換、行政の取り組みについての確認などさまざまな項目について審査しました。（写真1・2）

ジオパークを案内するガイド（ジオガイド）の受け付けやガイド養成などの運営を民間企業に委託する仕組みを新たに設けた点は、四国西予ジオパーク独自の取り組みであり、高く評価されていました。また、各地域を案内するジオガイドがいる点についても評価されていました。一方で課題として、四国西予ジオパーク全体を案内できるジオガイドがない点や観光客が訪れた際に「ここがジオパークだ」と目で分かる掲示物が少ない点などが挙げられました。

このように良い点・悪い点を踏まえた結果、四国西予ジオパークは再認定されました。

ジオパークの推進は、行政・地域住民・博物館や大学など関係する研究機関・県などが一つとなり持続可能な活動として行われていく必要があります。

そのためには、常に意見交換を行い、推進の方向性を模索していく必要があります。そのような点がしっかりとされていないと認定審査を突破することはできません。



地域おこし協力隊活動報告

三好市役所 地方創生推進課 勤務

加藤 有美



井川町で「自然の暦マーケット」に参加

三好市で過ごす2度目の冬。厳しい寒さの中、澄んだ空気に身が引き締まります。協力隊1年目の昨冬よりも生活に慣れ、毎日山を眺めながら、季節の移り変わりを感ずる日々を過ごしてきました。

昨年11月に、井川町で「自然の暦マーケット」という1日マーケットが開催されました。会場は、「辻のいろり」という古民家を改修した交流施設を中心とした伝統的な町並みです。辻のいろりでは各種イベントが



▲あたたかい雰囲気で行われた自然の暦マーケット

行われるほか、毎週土曜日に地域の方による辻まちニコニコ朝市も行われ、新鮮な野菜や加工品などが並びにぎわっています。自然の暦マーケットでは、手作りの食べ物や雑貨などのお店が15軒程立ち並び、音楽の生演奏も行われる中、地元の方や町外から来られた方、出店者、お客さまの壁を越えて、温かい雰囲気での交流が行われていました。私は、古民家にて和菓子作り体験を行いました。今回はなでしこまつりとの同時開催でしたので、旧井川町の花であった「なでしこ」をテーマにした生菓子を作りました。参加された方それぞれの個性が光る作りたての和菓子に合せて、三好市のお茶を入れて試食をしていただきました。今後もお茶、菓子とともに、こちらでとれた食材を多様に取り入れて味わっていただける体験を行っていきたく考えています。

三好市役所 観光課 勤務

大塚 学



国際交流ツアーinあるせ

昨年11月、楽校の宿あるせにて、株式会社JT Bと共同で、外国人留学生の受け入れツアーを実施いたしました。

今後増えてくる外国人観光客の来訪に備え、市内の有名観光地以外でも体験内容を充実させていこうという取り組みの一環です。

参加者はリトアニア、ハンガリー、中国からの大学院生で、2泊3日の行程で周辺の集落散策、そば、こんにゃく、豆腐作りなどを体験していただき、最



▲今回参加した3か国の大学院生と地元の方

終日に留学生から意見を聞く形式で進めました。留学生目線での有瀬の魅力として、「雲海の風景」「地域のコミュニティに入ったような雰囲気」「自然と共生している農業」などが挙げられ、ツアーにするなら、登山やラフティングとセットにしたプランが欲しい、授業とか体育館、音楽室でのアクティビティなど小学校ならではの環境を生かした体験メニューが欲しいなどの意見も頂きました。今回のツアーでは、留学生にとっても、地元の人々にとっても楽しいひと時を過ごしていただけたと思っています。観光客増加の恩恵をもっと地元の隅々にまで巡らせるべく、今後も似たような企画を各地で展開し、他の地域にない個性的なメニューを開発していきたいと考えています。